
雨が降る（後）

八坂 千景

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

雨が降る（後）

【Nコード】

N39010

【作者名】

八坂 千景

【あらすじ】

赤い傘は捨てました。

叶うはずのない奇跡はもう願いません。

雨の止んでしまった現実に。

つまらない事を考えてしまった そんな少女の現実逃避。

雨がやむ。

段々と勢いをなくしていく雨音と雨粒を体で感じながら、終わりに
も気づいていた。

雨がやんでしまう。

この雨が止んだら。

私は一体、どこへ帰ればいいというのか。

どこへ？

あの人の元へ？

帰れるなら帰って、抱き合いたいわ。

あの日へ？

帰れるなら帰って、暖炉で手を温めたいわ。

現実へ？

帰ったって、何の意味もないでしょうが。

頭の中で繰り返されるそんな、いまさらどうしようもない言葉。

私のやることは、いつだって矛盾しているのだから　　そうだ、今
さらだ。

だって、あの人も、あの日も、現実も、私が拒んだんだ。

理想の未来を壊したのは、私自身だ。

あの人も、あの日でも、この現実でも、ない。

虹をうつす空を見上げて。

一歩だけ踏み出して、屋根から抜ける。

ほら、どうだ。

虹も太陽も出たぞ。

後私は、何を待てばいい　　どこへ帰ればいい　　何を望めばいい？

あの人の声が聞こえることは、もう二度とないと知った午前中。

雨はやんだので、喜劇の主人公になろうと思います。

いっっておきますが、私は誰のことも待ってなんか　　……決

壞。

（後書き）

どうも、八坂です。

ふと頭に浮かんだことをそのまま書いてしまったら、何とも救いようのない内容に。

ジャンルは「恋愛」ということなので、きっとこの女の子には何かしらあったのです。

あとがきなんて初めてなんでよくわかっていませんが　　とにもかくにも、お粗末さまでした！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3901o/>

雨が降る（後）

2010年10月18日22時29分発行